

関口雄揮記念美術館 所蔵作品展

# 境界の風景

2011年10月29日(土)~2012年2月19日(日)

休館日 / 月曜日(祝日の場合は翌火曜日) 12月28日~1月5日

開館時間 / 午前10時~午後4時30分(入館は午後4時まで)

入場料金 / 大人800円(600円) 大学・専門学生600円(400円)

中高生400円(200円) 小学生200円(100円) 幼児無料

\*括弧内はリピーター料金 過去の入場券の半券のご提示でご利用いただけます

関口雄揮記念美術館



関口が生まれ育った埼玉県児玉郡大沢村は、奥秩父山系の東の麓に位置する自然豊かな土地である。幼少の頃より自然に親しみ、画家を志すようになってからも素描の修練などを通じてつぶさに自然を見つめてきた関口が、自身の進むべき道を風景面に見いだしたことは、ごくわかりやすい道理である。またその一方で、関口の自覚によれば、風景を描くことを意識的に行うようになった最大の動機は、戦争の体験にあるという。共に戦い散っていった戦友たちの鎮魂のために故郷の風景を描きはじめたことが、その端緒となったのだというのである。

そのためか関口が描く風景には、彼岸性を感じざるものが多い。例えば、断崖によって隔離された漁村の風景や、暗い原野の遙か彼方に光に照らされた場所がある風景などがそれである。いずれも様相の異なるふたつの領域が、有形無形の境界を挟んで隣接している様子が描かれており、彼岸と此岸との隔たりとともに、彼岸への礼賛や憧憬の念が、現実の風景の姿を借りて描き出されている。また永観堂の障壁画制作に着手した1995年以降、こうした傾向は浄土教的な世界観の影響を受けてより顕著となり、明るく穏やかな色彩の多様によって浄土の世界そのものを表そうとする試みさえなされるようになるのである。

本展では彼岸と此岸が接する境界の風景を描いた作品を展示する。対象の選択や技法の問題以前に、風景を描くことが関口にとっていかなる意味をもっていたのか、考察してみたい。

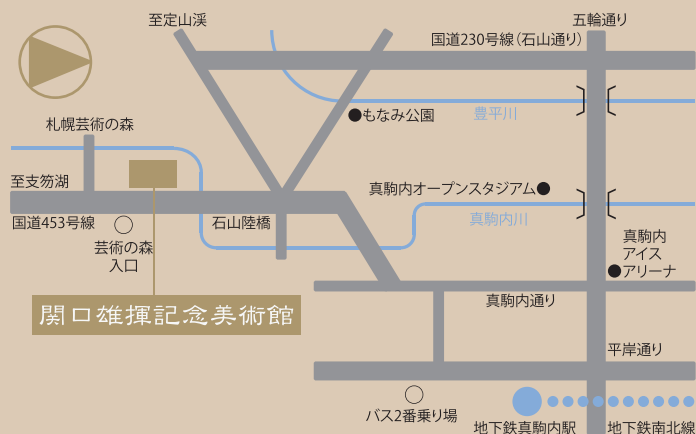
## 第二展示室

永観堂障壁画の小下図を紹介する。関口は1995年から2004年にかけて、永観堂内の画仙堂と釈迦堂の二棟の障壁画66面を制作、奉納した。今回は当館が所蔵する画仙堂障壁画《浄土変相図》の小下図と、釈迦堂襖絵《二河白道図》の小下図を併せて展示する。



永観堂画仙堂障壁画小下図  
《翳る》1997年

## 周辺地図



## 第三展示室

「印度スケッチ」を紹介する。2004年、永観堂釈迦堂の障壁画制作のため、インドをはじめ東南アジアの諸国へと取材旅行を行った際に制作されたのが同シリーズである。はじめて目にした異文化の光景への関口の新鮮な驚きと、畏敬の念とが溢れている。



「印度スケッチ」  
《永遠の街ベネニス 沐浴の人々》2004年

## 交通

### ■地下鉄・バスをご利用のお客様

地下鉄南北線「真駒内」駅バス2番乗り場より中央バス乗車「芸術の森入口」下車（所要時間14分 約15分間隔で運行）真駒内方面に徒歩1分

### ■お車をご利用のお客様

札幌市街中心部より国道453号線を南下支笏湖方面に約40分

# 関口雄揮記念美術館

〒005-0853 札幌市南区常盤3条1丁目（芸術の森入口）  
TEL 011-593-5050 URL <http://www.sekiguchi-muse.jp/>